

## 1. 調査の概要

### (1) 調査の背景・目的

- 少子化・高齢化や人口減少が進行する中国地域において地方創生を強力に推進するためには、人口ダム効果が期待できる拠点都市を中心とした都市圏における取組が重要であり、社会環境の変化や国の動向、圏域の地域特性を踏まえた発展の方向性と具体的な取組を検討。

**(2) 対象圏域** 岡山都市圏（岡山市・玉野市・備前市・瀬戸内市・赤磐市・和気町・吉備中央町の7市町）

### (3) 調査の視点

- 岡山都市圏における定住・移住に関する実態分析を基に、定住促進のために求められる都市機能や具体的な方策を提言として取りまとめる。

## 3. 調査の方法

### (1) 既存資料調査

- 岡山都市圏の転入・転出の状況や地域幸福度（Well-Being）指標について、統計資料をもとに把握・整理。

### (2) 有識者ヒアリング

- 岡山都市圏のまちづくりに精通する有識者に調査内容や都市圏の現状・課題等について助言を頂いた。

### (3) アンケート調査

- ウェルビーイングを高めるために有効な施策を検証するため、岡山都市圏の居住者・出身者が感じている地域特性の評価を調査。（都市圏の暮らしの幸福度・満足度、定住意向、都市圏のイメージ、都市圏での経験など）
- 岡山都市圏と同規模で転出超過が比較的少ない熊本都市圏居住者にも同内容の調査を実施し、地域特性を比較。

## 2. 調査のコンセプト(目標・仮説設定)

- 中国地域白書2023より以下の目標・仮説を設定する。

### 【目標設定】

- 中国地域の一般的傾向として、ライフステージの選択と地域選択との関係について、「進みたい大学がある」「就業したい仕事がある」のように「ライフステージの選択が地域選択を生じさせる者」よりも、「地元でいたい」「地元から出たい」という「地域選択の後にライフステージの選択が生じる者」の割合が多い。

- 地元志向者を増やすことにより定住促進を図ることを目標に設定し、地元志向の構造や定住促進に向けた施策を検討する。

### 【仮説設定】

- 中国地域の一般的傾向として、地元志向に影響を及ぼす要因として、「生活利便性」のほか、「居心地のよさ」「自己実現性」「自分らしさ」から構成される「地元との関係性」がある。
- また、「地元との関係性」には地域の社会経済特性（経済力・自然とゆとり・社会関係資本・伝統・わくわく感）が影響を与えている。
- 岡山都市圏は、「生活利便性」が比較的高い一方で、「地元との関係性」、その元となる「居心地の良さ」「自己実現性」「自分らしさ」がいずれも低い。
- このため、引き続き「生活利便性」を高めつつも、他地域と比べ低い「地元との関係性」を高めることが定住促進に有効と考えられる。

- 地元との関係性が強い人ほどウェルビーイングな状態にある傾向がみられることから、ウェルビーイングを高めることが定住促進に有効という仮説に基づき、そのために必要な施策を検討する。

## 4. 現状分析

### 【岡山都市圏の人口動態】

- 岡山都市圏は、都市圏全体として転出超過が拡大傾向にある。
- 岡山市は、東京圏や大阪圏に対して大きく転出超過となっている。

### 【岡山市の地域幸福度（Well-Being）指標】

- 岡山市の総合指標（主観指標）は、いずれも5～8点の回答割合が多く、比較的高い。
- 幸福度や生活満足度に影響を及ぼす指標として、「健康状態」「自己効力感」「住宅環境」「地域とのつながり」「文化・芸術」「公共空間」などがある。

### 【岡山都市圏の特徴（有識者ヒアリング調査）】

- 特徴のない地域という認識が、地元との関係性の低さにつながっている可能性がある。
- 岡山市は住みやすい都市であるが、その評価を高めるためには公共交通が重要。
- 歴史・文化や芸術などの地域資源を活かしたまちづくりが考えられる。

### 【岡山都市圏での暮らしの評価（アンケート調査）】

- 幸福感の高い人ほど相対的に定住意向も高いことから、地域での暮らしに対する幸福感を高めることが、定住促進につながる可能性が伺える。

### 【地域特性の評価（アンケート調査）】

- 幸福感に影響を与えている都市圏イメージとして、「人間関係に恵まれる」「自分らしく暮らせる」「地域の文化や愛着を感じる」「まちに活気や機会がある」「寛容性がある」「生活や移動が便利」などがある。
- 幸福感に影響を与えている都市圏での経験として、「自然に触れる」「まちの景観に親しむ」「地元の食や店を楽しむ」「まちの活気を感じる」「歴史や伝統に触れる」「プロスポーツや芸術に触れる」などがある。
- 岡山都市圏は、熊本都市圏に比べ、「地域文化への愛着」や「まちの活気」などに弱みがある。

## 5. 定住促進のための方策検討

### 【定住促進策の方向性】

方向性1  
豊かな暮らしを感じられる  
リバブルなまち

### 【必要な都市機能】

日常生活に豊かさを与える  
多様な都市アメニティ

- 「暮らしやすさ」が評価される中で、コロナ禍による職住の混在化、都心における高層マンションの建設など、今後も都心人口の増加が期待されている。

方向性2  
生活圏がリアル・デジタルな  
ネットワークでつながるまち

都市圏内をシームレスにつなげる  
ネットワーク

- 今後も通勤交流圏を維持していくためには、コンパクトさや生活の便利さといった強みを、都市圏内の誰もが享受できるようなシームレスなネットワーク形成が必要。

方向性3  
地域に根づく文化を誇れるまち

シビックプライドを高める文化機能

- 歴史・文化資源が多くある一方で、都市圏としての評価に必ずしもつながっておらず、地域の伝統や文化に愛着を持ち、シビックプライドを醸成することが必要。

方向性4  
交流や自己実現の機会に恵まれた  
アクティブなまち

にぎわいやイノベーションを生む  
交流機能

- 熊本都市圏と比べ、多様な交流の機会やまちの活気に対する評価が低く、日常的なにぎわいや、大学の立地を活かした産学官共創のまちづくりが必要。

- 飲食・アート・音楽等の身近なカルチャーの集積  
【取組例】公共施設等を活用したフードインキュベーションの推進 など
- 職住近接を可能にする都心居住の推進  
【取組例】多様な住宅供給を含む開発事業への支援、中古住宅取得に対する支援 など
- グリーンインフラの整備  
【取組例】街路空間へのグリーンファニチャー等の設置と維持管理の仕組みづくり など
- 人中心でウォークラブルな都市環境整備  
【取組例】フリンジパーキングの推進、パークレットの整備、新たなシェアモビリティの導入 など
- 郊外とまちなかをつなぐ公共交通ネットワークの強化  
【取組例】最適な交通手段による移動をサポートする岡山都市圏MaaSの導入 など
- 居住地での快適な暮らしを支えるデジタルインフラの整備  
【取組例】デジタルデバイス等を活用した生活支援、データ活用基盤の構築 など
- 多様な歴史資源を活用した地域文化の発信  
【取組例】神社などの歴史資源の市民活動での活用促進、メタバースを活用したコンテンツ提供 など
- アート・演劇・スポーツなど多様なジャンルの地域文化の創造  
【取組例】空き店舗等を活用したアーティストの育成の場づくり、ハレノワと連携したまちづくり など
- 日常的なにぎわいを生むまちづくりの促進  
【取組例】ストリートパフォーマンスができる公共空間の仕組みづくり、エリアマネジメントの支援 など
- イノベーションを生む産学官共創のまちづくりの促進  
【取組例】産学官連携で地域課題解決等に取り組むプラットフォームの構築 など